



# 埼玉県立浦和西高等学校

Urawanishi High School

発行日 令和3年5月12日  
 学校通信 ~ 西高は今 ~  
<http://www.urawanishi-h.spec.ed.jp>

## 「UNビジョン90」2021

校長 利根川 典子

浦和西高校では、創立80周年（平成26年）を機に策定された「UNプロジェクト80」をもとに、前校長 杉林正敏先生が創立90周年に向けて進化させた「UNビジョン90」を中核にして、教育活動を進めてきました。最新の入試結果を見てもその成果が着実にあらわれてきていることを感じます。

今年度も引き続き「UNビジョン90」をもとに教育活動の充実を図り、生徒に「確かに高度な学力」「信頼される人間力」「たくましく健やかな心身」の3つの力を確実に身に付けさせてまいります。特に今年度は、令和3年度入試で新規に実施された「大学入学共通テスト」の分析・対策を強化するとともに、令和4年度から年次進行で実施される新学習指導要領に対応した指導体制に向けて万全の準備を整える1年となります。

一方、「With コロナ」の時代を迎え、学校行事の在り方も変わります。「自主自立」の精神のもと、本校の学校行事は生徒たちにより企画・運営されています。生徒たちには常に前向きに学校行事に臨んでほしい。変わる時代の中で前例踏襲は通用しない。今までの方法でできないのであれば、安心・安全を確保しつつできる方法を考える。仲間と知恵を出し合い、協力して新しいやり方で挑戦する。新しい発想で新しい価値を生み出してほしい。その意味も込めて、今年度はあらゆる場面で、全教職員が3つのC【Challenge・Creativity・Communication】＝「挑戦する心」「創造力」「コミュニケーション能力」の育成に重点を置いた教育活動を展開し、新しい時代を切り拓く真のリーダー育成を行ってまいります。「進化」し続ける西高にご期待ください。



## 夢を現実とするために

### ～果敢に挑んだ73期生の受験報告～

進路指導主事 山田 誠一

今年3月に卒業した73期生は国公立大学67名、私立大学1169名の合格者を出しました。昨年の72期生が出した国公立大学72名という記録に残っている昭和51年(1976年)以降の最高数値には届きませんでした。私立大学合格者が1000名を超えたのは初めてのことです。特に早慶上理は32名、GMARCHは217名と健闘しました。また、現役進学率は88.1%と、定員の厳格化が始まった平成27年以降で最高数値となりました。また、コロナ禍の中で始まった新しい入試制度で安全志向に走るかと思われましたが、指定校で出願した生徒は昨年より減少しました。学校推薦型選抜(公募制)と総合型選抜で出願した生徒は昨年比微増という数字でした。

本校の3年次における進路指導の目標は「主体的な進路選択」です。【自分で調べ、自分で考え、自分で決める。自分で決めたことである以上、どんな結果になったとしても人のせいにしてはいけない。】自分の進路のことですから、自分で決めるということは当たり前のことです。しかし、この当たり前のことが難しい時代です。

情報が溢れ、必要な情報を探すのに一苦勞。

入試制度は年々複雑化し、受験日程を立てるのが難しい。昨年からのコロナ禍で、先が見通せない。しかし、このような状況の中にもありながらも、第73期生360名はそれぞれの目標実現に向け果敢に挑戦していきました。

進路資料閲覧室には赤本が過去4年間分(約1000冊)あり、生徒は1回3冊まで、1週間借りることができるシステムになっています。借りる際に「貸出しカード」に教員がサインをしますが、昨年度は早稲田大学の赤本を借りた生徒が多かったように思います。サインをする際にそんな話を生徒にした時、生徒からかえてきた言葉は「だって、受けない手はないでしょう！」でした。実際、早稲田大学の受験者数は前年の2倍近くの人数でした。大学受験は、数字を競うものではありません。各々の夢を現実とするために避けては通れない受験という試練を通して、生徒たちの成長を学校全体で支えていくものです。73期生は先輩である72期生が受験に向かっていく背中を見て育ち、自らの受験に向かっていきました。そして、その姿を見てきた74期生(現3年生)。生徒たちは令和4年度入試に向けて準備を始めています。生徒たちは年々逞しくなってきたように思います。

